

II. 日本における「単一民族神話」の歴史的起源と変遷過程（その5）

—「単一民族神話」の終焉とポスト・コロニアルの未来へ—

浅野慎一（神戸大学）

【「単一民族神話」の終焉】

外国人労働者の本格的流入→戦後日本社会・文化の見直し・転換。

- ①企業：高度成長期：日本型企业社会（終身雇用・年功序列）・「勤勉と忍耐」・「和の精神」。
→雇用流動化（非正規雇用）・実力主義（反年功制）・個性／主体性重視。
 - ②学校：高度成長期：管理主義（パターナリズム）、同質性を前提とした競争主義（知識重視・詰め込み教育）。
→個性／多様性／主体性の重視（ゆとり教育：「落ちこぼれも個性／自己責任」、アクティブラーニング）、「新しい学力」観、異文化理解・多文化共生教育
 - ③性差：高度成長期：不安定労働部門＝女性（パート）等・性別役割分業。
→外国人労働者の下支え。男女共同参画・ジェンダー平等。
 - ④外国人・少数民族：高度経済成長期：（実際はいるが）「いないのと同じ」・同化強制。
→1) 多文化尊重・人権保護。
 - a) よりスムーズな低賃金労働力の確保→一定の社会保障適用。
 - b) 新たな多様性（新渡日外国人）の追加。
同化強制ではなく、多様性の容認 & 言語・文化的同質性（日本語等）。2)（新渡日外国人）言語・文化的異質性に基づく差別（低賃金等）・排除の新たな対象（←女性・農民・在日コリアン・アイヌ）
3) 多様な階級・階層の外国人受け入れ。
 - ex) 専門職・管理職（候補者）は定住（移民化）も促進。
単純労働者・低賃金：技能実習生・特定技能。治安対策上、期限付・職種制限付。
国籍を問わない各階層労働者内での競争激化・雇用流動化・労働条件引き下げ・長時間労働・低コスト生産体制。
- * 日本社会の「国際化」「多様化」：日本の資本蓄積様式の変更に起因。
 - ①輸出主導型高度経済成長（国内労働市場）→多国籍企業・外国人労働力活用。
 - ②同質性・「和」の精神に基づく日本型企业社会→異質性・能力主義競争に基づく新たな企業社会。
 - ③異質性を認めない単一民族神話→異質性に基づいて差別・選別する民族格差社会。

【国民的支持調達の手法とその限界】

国民的支持調達・治安維持：2つの手法。

- ①国内外を問わぬ外国人労働者の低賃金・長時間労働に基づく資本蓄積の一部で、自国民に相対的高水準の生活・福祉を提供・保障。（＝西欧・福祉国家の支配様式）
- ②「自国社会の構造的問題」→「自国以外の責任」 or 「個人の自己責任の問題」にすり替え・矮小化。
 - 1) 「外国人が増えたから日本人が失業／治安悪化」等。（ナショナリズムという虚偽意識）
ヘイトスピーチ・露骨な排外主義・極右民族主義。
BUT より広い裾野。マスメディア等による日常的洗脳・不可視化も。
 - 2) 「良い外国人と悪い外国人を同一視しない。きちんと峻別」等。（個人主義という虚偽意識）
BUT 限界。
- ①西欧・福祉国家自体、維持困難。移民問題。
 - 1) 単純労働者を期限付・職種制限付にとどめ、移民として定住させないことは困難。
 - 2) 階級階層対立に根差す民族対立。地球規模の階級格差を国内に持ち込み。
→民族紛争・外国人排外の極右民族主義の台頭。
 - 3) 日本：人口規模的にも北歐的「福祉国家」の実現は困難。
- ②極右民族主義・移民排撃・自国ファースト＝国民（nation）の分断。（≠ナショナリズム復活・強化）。

グローバリゼーションとナショナリズムの双方の破綻。地域・階級・人種等による多元的分岐。

地球規模・一国内の階級格差構造：人種・民族差別の原因。（人種・民族の多様性≠差別の原因）

③日本がいつまで多国籍企業化／外国人・移民の受入国？

アメリカ・日本の相対的地位低下／中国の躍進・覇権国家化。

日本：外国人労働力の送出国へ。 中国崩壊を「願望」するネット右翼の愚かさ。

【近代社会の3つの「壁」：国籍・階級・能力】

外国人労働者流入が浮き彫りにする3つの「壁」＝近代社会で解消不可能な「壁」。

①国籍の「壁」。国民主権＝主権から外国籍者を排除。

②階級の「壁」。資本主義＝階級格差は不可欠の構成要素。

③能力の「壁」。資本主義の階級格差＝能力主義（メリトクラシー）によって正当化。

封建的身分制度：生得的属性（家柄・血統・性差等）による規定性。∴ 移動困難。

近代社会では、時代遅れの不当な差別。

資本主義的階級制度：獲得的業績（学歴・資格・職業等＝個人の能力・努力の結果）。∴ 移動可能。

自己責任。∴ 正当な区別≠不当な差別。

BUT 1) 獲得的業績に基づく差別：つねに正当？ 普遍的な人権との関係は？

平等＝単なる「機会の平等」に限定する根拠は？

2) 獲得的業績と生得的属性の二分法：非現実的。（機会の平等：非現実的）

ex) 「格差社会」批判の普及。

獲得的業績主義（メリトクラシー）＝強者の虚偽意識。

外国人（労働者）：近代社会の「壁」の虚偽性を暴露。

①国籍の「壁」。国民主権と普遍的な基本的人権の矛盾。

②階級の「壁」。低賃金労働力として導入・受け入れ。

& 階級格差：一国内部のみならず、グローバル資本主義の構築物。

格差・不平等：民族的異質性の産物ではなく、階級構造の産物。

③能力の「壁」。メリトクラシーの欺瞞性暴露（「出身国＝生得的属性」による有利不利の可視化）

& 言語・文化の「壁」：生得的属性であり、獲得的業績でもある。

「日本語ができないから低賃金・差別」「言語＝文化資本」の虚偽性。

国籍・階級に目を閉ざした「多文化共生、言語・文化教育」による問題解決：非現実的・虚偽意識。

「近代社会の構造的格差」の問題を「個人の能力・努力（自己責任）」の問題にすり替え・矮小化。

外国人（労働者）の増加→近代社会の「壁」の顕在化・可視化。

∴ ＝近代社会の「壁」の批判的克服（脱近代社会実現）の最前線。

【未来社会への展望】

国境を越えた主体の労働－生活の現実、模索しつつある未来の社会像とは？

《本講義第1回目》現代＝「nation（国家・国民・民族）をめぐる人類史的大転換期。

（≠没歴史的・既存社会と調和的・個人主義的な「世界市民」「グローバル人材」「多文化共生」等）

既存の世界社会の歴史的な矛盾を直視、その批判・克服、社会構造そのもののラディカルな変革。

ex) 1) 労働者階級内部での国境を越えた連帯は？

2) 国籍・階級・能力を超えた「人権」 or 「国籍・階級・能力による差別と両立・併存する近代的『人権』思想」を越えた新たな価値観とは？

3) 出身国・移住国の双方の国家・階級・社会に対する批判的まなざしとその共有の進展は？

4) 言葉や文化の問題、個人主義に矮小化しない社会の変革は？

5) ナショナリズムとグローバリゼーションを克服したグローバルな公共圏・生活圏の成立は？

＝国民主権・民族解放を越えたポスト・コロニアルの主体／ディアスポラの登場は？

「血統－出身地－現住地－言語文化－国籍」の離散的・融合的主体。ディアスポラ。

6) 資本・賃労働関係としてのグローバリゼーションを越えたローカルな公共圏・生活圏の実態は？